

歴史手習塾

歴史手習塾
HISTORY SEMINAR
seminar21

真田と関ヶ原合戦

真田家と2つの戦い

真田と大坂の陣

真田信繁。彼は「真田幸村」としてよく知られるが、これは江戸時代になってつけられた通称である。

「真田幸村」は、なぜ日本人にこれほど愛されるのだろうか。

日本の「戦国」を終結させ、その後続く徳川家康の政権に導いた「関ヶ原合戦」を真田家はどう戦ったのか。さらに、信繁が戦陣に散った「大坂の陣」、信繁は何を思い戦ったのか。

真田家から見た2つの戦いを中心として、戦国時代の終焉を検証する。

2016年NHK大河ドラマをより深く楽しめる講座！

上図：「大坂夏の陣」屏風 右隻 大阪城天守閣所蔵
下図：「関ヶ原合戦」屏風 彦根城博物館所蔵

2016
1/24
日曜日

第1講 真田は関ヶ原合戦をどう戦ったか

13:30開場 14:00開講 講師：小和田 哲男 氏（静岡大学名誉教授）

2016
2/21
日曜日

第2講 真田は大坂の陣をどう迎えたか

13:30開場 14:00開講 講師：北川 央 氏（大阪城天守閣館長）

好評発売中

会場 宗安寺 〒522-0007 滋賀県彦根市本町2丁目3-7 料金 各講座 1,200円 2講座セット価格 2,000円 ※全席自由

主催：NPO 法人ひこね文化デザインフォーラム（歴史手習塾プロジェクト）

後援：彦根市 / 彦根市教育委員会 / 彦根商工会議所 / 彦根商店街連盟 / 公益社団法人彦根観光協会

助成：文化遺産を活かした地域活性化事業



歴史手習塾 seminar21 真田家と2つの戦い

2016
1/24
日曜日

第1講 真田は関ヶ原合戦をどう戦ったか

関ヶ原合戦で真田家は父子が敵味方にわかれて戦っている。実際には関ヶ原ではなく、上田合戦で西軍にいた昌幸・信繁と東軍についた信之は合みまえる。秀吉の死後、関ヶ原合戦までの2年間「秀吉後」を見据え、事態は大きく変化していく。それぞれの思惑を胸に「関ヶ原」を迎えた武将たちの生き方を真田家を中心に検証する。



講師：小和田 哲男氏

静岡大学名誉教授。1944年静岡市生まれ。戦国時代史研究の第一人者。

これまで評価の低かったナンバーツーに光を当てるなど、新しい歴史像を提示している。

NHK大河ドラマ「秀吉」「功名が辻」「天地人」「江」に続き、「軍師官兵衛」でも時代考証を担当した。

子ども向け入門書やテレビ番組などで、歴史の面白さを分かりやすく伝えている。

2016
2/21
日曜日

第2講 真田は大坂の陣をどう迎えたか

関ヶ原合戦に勝利した家康は、3年後に征夷大将軍となり、幕府を開く。一方、大坂城には徳川家を凌ぐ権威を保持したまま秀頼が君臨していた。豊臣家と徳川家の最終決戦となった大坂の陣で武将たちは何を思って戦ったのだろうか。その後伝説となった「幸村」のかっこよさはどこにあるのか、多くの日本人に愛されるのはなぜか。大坂の陣を中心に追いながら、その後「幸村」という伝説になった信繁の人物像に迫る。



講師：北川 央氏

1961年大阪府生まれ。神戸大学大学院文学研究科修了。1987年に大阪城天守閣学芸員となり、2014年より館長。この間、東京国立文化財研究所・国際日本文化研究センター・国立歴史民俗博物館・国立劇場・神戸大学・関西大学など、多くの大学・博物館・研究機関の委員・研究員・講師を歴任。織豊期政治史ならびに近世庶民信仰史、大阪地域史専攻。

著書に『大阪城ふしぎ発見ウォーク』（フォーラム・A）、『神と旅する太夫さん』（岩田書院）、『おおさか図像学』（東方出版、編著）など多数。

会場アクセス

会場：宗安寺

〒522-0007 滋賀県彦根市本町2丁目3-7

- 彦根駅から徒歩20分(タクシーで5分)
- 車でお越しの場合は、市営京橋口駐車場ほか、近隣の有料駐車場をご利用ください。



プレイガイド

■窓口でのご購入

- ◆ビバシティ平和堂くらしのサービスセンター
- ◆アル・プラザ彦根くらしのサービスセンター
- ◆ひこね市文化プラザチケットセンター

0749-27-5200

■メールでのお申し込み

- ◆NPO 法人ひこね文化デザインフォーラム

→ tenaraijuku@hcdf.jp

- ①申込講座名(受講日) ②申込者(氏名 / ご住所 / 電話番号)
- ③申込人数を明記下さい

お問合せ

- ◆NPO 法人ひこね文化デザインフォーラム

〒522-0063 滋賀県彦根市中央町7-47 Kビル3階 / FAX.0749-27-6880

tel **0749-23-3383**
mail **mail@hcdf.jp**

※お問合せ時間 平日8:30~17:15